

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	グループホームひだまり	2階	
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	平成26年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3071100279-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気つくりと、利用者、職員ともに笑顔で明るく穏やかな日常を送れるよう支援しています。また、個人のニーズを把握し、個別援助を行うことで、残存機能を落とさず生活できるようにしています。季節を感じられる行事を盛り込み楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階にデイサービスが併設されており、2階・3階がグループホームとなっている。職員は常に笑顔で接することを心がけ、自由な雰囲気のなかで、利用者が明るい気持ちで安心して過ごすことができるよう取り組んでいる。食事のときも、利用者と職員が共にテーブルを囲み会話を楽しんでいる。利用者ができることを大切にして、その人らしく生活できるように、職員間でミーティングを重ねて工夫し、一人ひとりに気配りがなされている。日常的な散歩や買い物、ドライブなどの外出支援の他にも、回転寿司、水族館、花見なども計画して実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が笑顔で過ごせるように、勤務交代時の申し送りや、会議で情報の交換し、理念の共有につなげています。	笑顔に重きをおいた理念が掲げられ、利用者の笑顔を引き出せるよう会議でも意見を出し合い、職員間で共通認識を持って、寄り添って支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護者教室や、デイサービスの利用者さんとも交流し、一緒にお茶を頂いたりしています。また、買い物等で会話もあります。	地域住民に向けて、介護者教室を開いて参加を呼びかけている。まわりに民家が少なく、近隣の人と日常的に交流する機会は少ないが、スーパーへの買い物や外食など、地域とつながる機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	半年に一度デイサービスとともに介護者教室で認知症講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様には、毎回案内し参加を呼び掛けています。特に新規入所された家族様には、意見や要望を聞き、サービス向上に努めています。	消防訓練や看取りの指針など最新の取り組みを報告して事業所の現状を伝えて意見交換し、運営に活かそうとしている。	地域の人や家族の参加のきっかけとなるよう、旬の話題をテーマに外部から講師を招くなどの試みや工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回参加していただき、アドバイスや意見を聞き参考にしています。	運営推進会議に市の担当者の参加が得られており、事業所の現状を伝え、意見交換している。連携を深めており、問題点について日常的に相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、家族様の要望でもあり危険防止の為、玄関は施錠していますが、その時々で自由に対応しています。	ドアを開けるとすぐ階段という建物の構造上、安全面に配慮してユニットの玄関に施錠をしているが、利用者に寄り添い、心理的な負担を与えないように気をつけている。言葉による拘束についても、職員間で気づいた時に注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学び、職員全員が理解し、防止に努めています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名が、制度を利用しているので活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い、理解、納得を得られるよう時間をかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話連絡の際、聞いた意見や要望を会議等で話し合い、反映させています。	信頼関係作りに留意して、家族の訪問時や電話連絡などで、利用者の変化や対応についても随時話し合っている。出された意見や要望は迅速に検討し、利用者の生活に活かせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、上司、部下との話し合いをし、意見や提案を聞き反映させています。	個々の職員が目標を持って取り組み、一日の締めくくりのスタッフ会議で意見を出し合っており、サービス向上につなげている。管理者は職員の意見や要望を聞き、運営に取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて、実績の評価、今後の目標、自由記述により条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や、勉強会でトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の参加や、同法人内のグループホームと相互実習を行い、質の向上に取り組んでいます。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、本人の出来る事、出来ないこと、背景シート、好きな物、嫌いな物等を記入して頂き、情報を得て安心してもらえるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階は、特に連絡を密にして不安なことや要望を聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーの情報や、退院計画書、看護サマリー等で支援を見極め、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒に作り、後片付けを一緒にし、季節の野菜や花を育て、生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に訪問、外食、外出を楽しまれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物で店員さんや、近所の方々が声をかけてくれたり、デイサービス利用の知り合いが立ち寄ってくれたりして頂いています。	1階のデイサービスを利用する知人と会って話ができるよう支援している。近くのスーパーへの買い物は、地域で馴染みの人と会う機会ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせ、リビングの座席に配慮し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人入所後や、他施設入所後も面会や、時々、家族様に連絡し様子を伺ったりして、状況を把握しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや言葉を、生活シートに記録し、職員が共有してケアプランに反映しています。	利用者の意向に沿った暮らしができるよう、利用者の言葉に耳を傾け、生活シートを活用して記録し、職員間で共有して、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代別背景シートやセンター方式を利用し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや、生活シートの活用で、日々把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題を分かりやすく記録し、処遇会議で話し合い、ケアに生かせるよう具体的な計画を作成しています。	高齢化に伴う利用者の変化に合わせた支援ができるよう、日々の生活シートをもとに家族、職員で話し合っ計画を作成している。職員は生活シートに利用者の小さな変化もとらえて記録するようにしている。	利用者の経過が分かるように、以前の介護計画も、モニタリングと一緒にファイルに綴じておくことが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートに詳しく記録し、計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて訪問看護の利用や、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導の下、防災訓練の参加や、中学生の体験学習の受け入れ等で、安全で楽しく生活できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や、急変時に相談できるかかりつけ医を確保しています。	事業所の協力医療機関以外のかかりつけ医とも連携できているので、以前からのかかりつけ医での医療を受ける利用者も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人訪問看護師に24時間対応してもらい、適切に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、連携室や病院関係者に連絡をとり、状態を把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、本人、家族様の意向を優先に考え、話し合っています。他部署や地域の医療関係とも連携して取り組んでいます。	法人の方針でもあり、今までに看取りの経験はなく、重度化や終末期は入院や施設入所となっている。今後希望があった場合は、家族や医療機関の協力が得られれば、できる限り対応していく方向で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを元に話し合い、救命救急訓練に参加し、消防署の職員より指導頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の指導を受け、津波を想定した訓練も行っている。米等の食糧も、ある程度確保しています。	職員全員が利用者の避難誘導を身につけられるよう、年に2回の防災訓練を実施している。その中で見えてきた課題をみんなで意見交換し、より良い避難方法の共有を図っている。	

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に合ったプライバシーを考え、個人の人格を尊重し、言葉かけや対応に注意しています。	一人ひとりの利用者を尊重し、日常生活の中で伝わりやすい言葉を選び、丁寧に声かけするように心がけている。トイレは鍵がかからないように細工してあるので、使用中にドアを開けてしまうこともある。	安全面に配慮しながらも、羞恥心やプライバシーに配慮して、安心してトイレを利用できるような鍵の検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択メニューや、お誕生日等の過ごし方や要望を聞き、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にして、希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人的に毛染めに出かけたり、散髪の方がカットやハンドマッサージをしてくれたり、おしゃれを楽しんでいます。また、基礎化粧品がきれた時、買い物を頼まれることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓準備や、調理できる人各々が、できることを自ら積極的に手伝って頂いています。また、会話を楽しみながら、職員と共に同じ食卓で食事をしています。	利用者の希望も聞いて献立を決め、近くのスーパーと一緒に買い物に出かけている。盆やテーブルを拭いたりなど、準備や片付けのなかでも一人ひとりのできる力を引き出し、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活シートに1日分の水分量を記録していません。食事量等、低下気味の場合は、特に観察の様子を観ています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨きの声掛け、介助を行っています。週1度のポリデント消毒もしています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パッド使用していても、時間を見て随時トイレ誘導を促しています。夜間はPトイレ使用し介助おこない、排泄の自立に繋げています。	トイレで排泄できることを大切に、利用者の状態に応じて誘導している。下着の交換も自尊心に配慮して対応している。廊下に「トイレ」と表示しているが場所の間違いもみられる。	トイレの表示を工夫し、漢字で「便所」と表示したり、イラストで表示したりして、よりわかりやすくする工夫が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表や食事量をみて状況を把握し、主治医の指示のもと、便秘薬の服用、水分強化、メニューの工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな時間、毎日希望する方に等、自由に入浴して頂いてます。入浴拒否される方には時間を空けて、声をかけています。	利用者の希望する時間に入浴している。入浴を拒否する利用者には、本人の様子を見て一番に声かけするなど、一人ひとりに合わせた対応で、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも横になりたいと要望があれば、自室に戻って頂いたり、一人、一人状況に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容を記録し、職員全員が把握するように徹底しています。薬の管理は職員が行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を把握し、生活の中に役割を取り入れ、各利用者の気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、カラオケ等、希望に応じて支援しています。また、家族様とも外食やお墓参りなど出かけています。	近隣の散歩コースは車の往来も少なく、ゆったりと散歩を楽しむことができる。回転寿司や水族館にでかけたり、買い物やドライブなど、戸外に出る機会が多く持てるよう取り組んでいる。	

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名：2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方は、お小遣い程度を所持されて、買い物支援で欲しい物を自由に買って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己にて家族様に電話する方や、手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは、四季折々の季節を感じて頂けるように開放しています。天候に合わせて光や、室温を調整し工夫しています。	台所、リビングがゆったりとした共有空間となっている。ソファでくつろいだり、景色が一望でき、季節感が感じられる畳の部屋でゴロンと寝そべることもできる。2階の広いバルコニーでバーベキューを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が誘い、居室でテレビを観たり、リビングでパズルを楽しんだり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みの物を持ち込んだり、時々、家族様が整理に来られたりして、居心地よく暮らせるように工夫しています。	収納スペースが広く居室内も広くゆったりしている。一人ひとりが気に入ったものを自由に持ち込み、その人らしい居室となっている。畳の居室もあり、気のあった数人の利用者が一緒に過ごすこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を把握し、生活シートに記録しています。建物内の見直しや工夫をして、安全に生活できるよう努めています。		